

経営比較分析表（令和2年度決算）

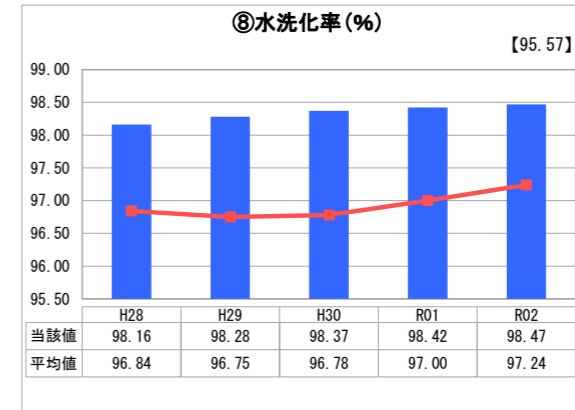
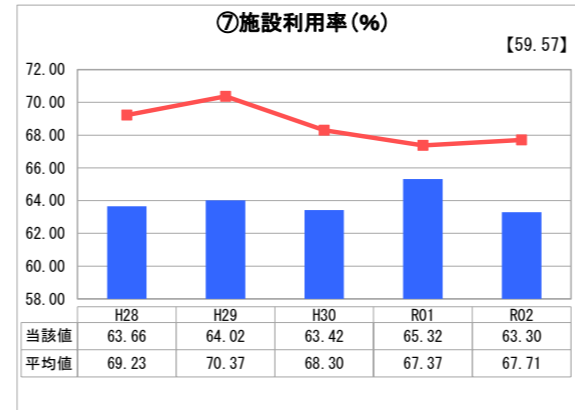
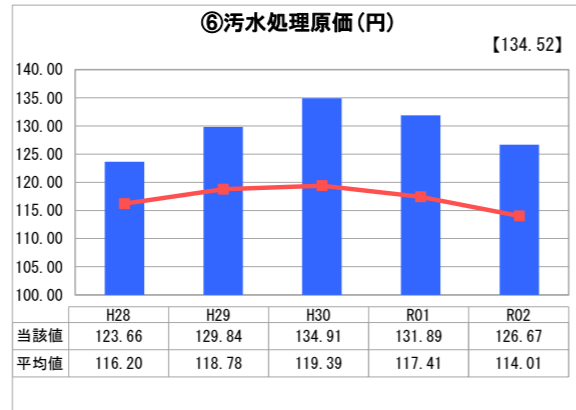
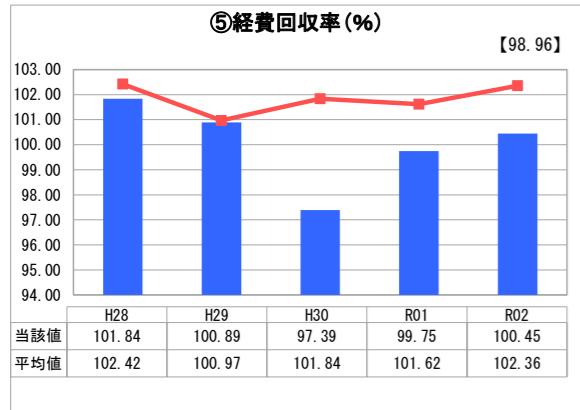
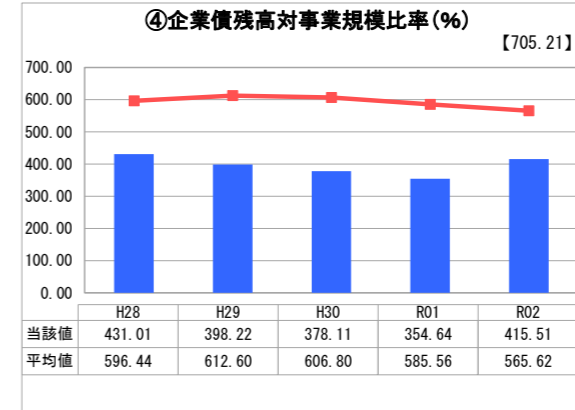
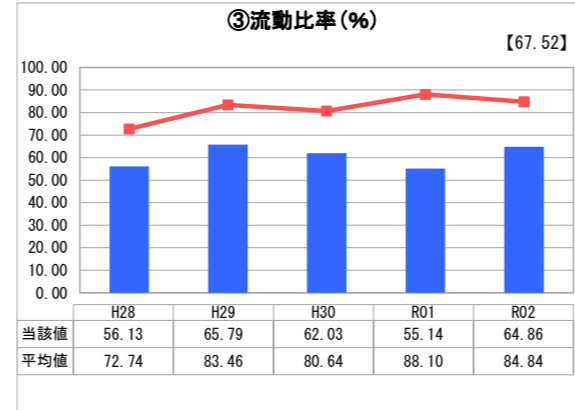
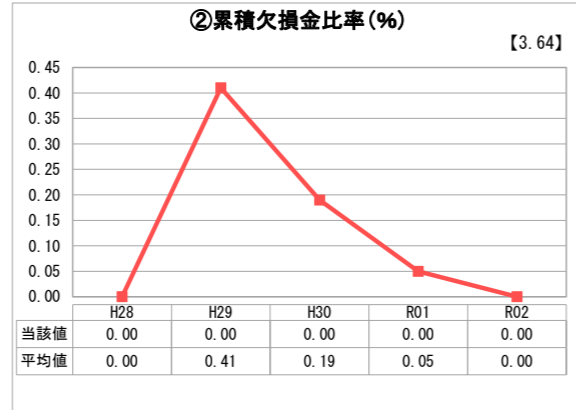
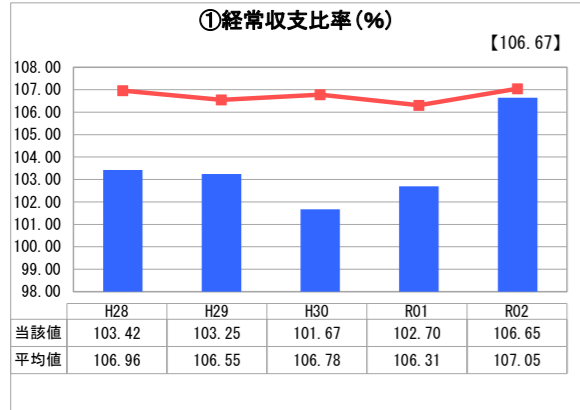
神奈川県 藤沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	69.89	95.93	80.64	2,203

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
439,416	69.56	6,317.08
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
422,380	47.78	8,840.10

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、恒常的に100%を上回っており、また② 累積欠損金比率は0%であることから、経営の健全性は保たれております。今後も引き続き健全性の維持に向け、収入確保・経費削減に取り組めます。

③ 流動比率は、流動資産の現金預金が増加したこと、また高利率の企業債が償還終期となり流動負債が減少したことにより上昇しています。今後も引き続き保有現金の確保に努め、流動比率の上昇を目指します。

④ 企業債残高対事業規模比率は、企業債残高は減少したものの、一般会計負担額が減少したことにより、前年に比べ増加していますが、全国平均及び類似団体平均と比べると、ともに下回っています。今後さらにストックマネジメント計画等を実施することによる投資が見込まれるため、中長期を見据え投資の平準化を図るとともに使用料の適正化に努めてまいります。

⑥ 汚水処理原価は、令和2年度に汚水・雨水割合の見直しを行ったことにより、汚水処理費が減少しました。この汚水・雨水割合の見直しに伴い⑤ 経費回収率が100%を超えました。今後も引き続き維持管理の効率化と収入の確保に努め、経費回収率100%以上を維持することを目指します。

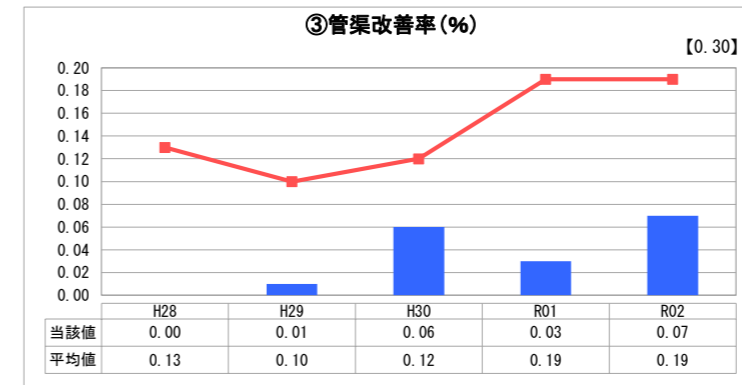
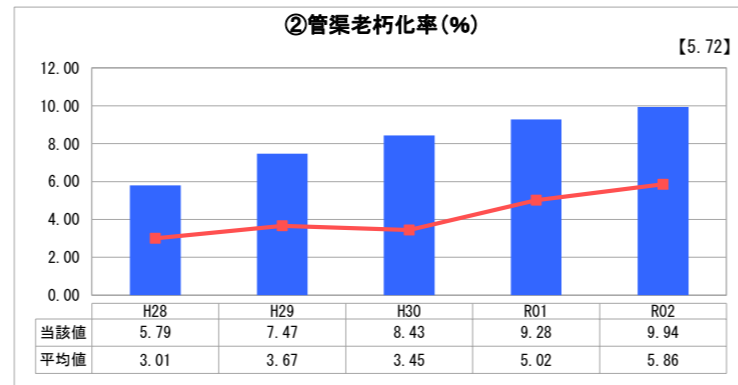
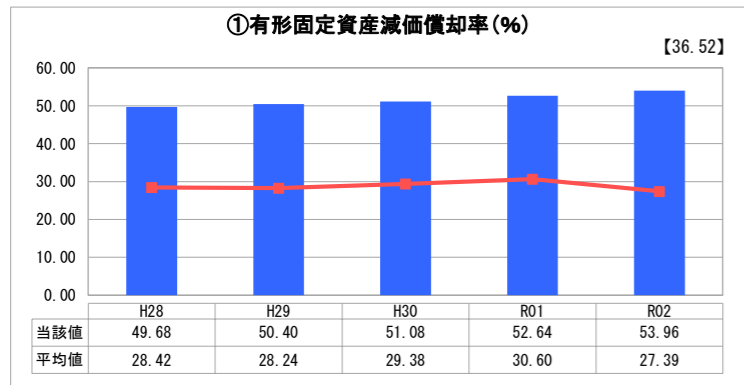
2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 管渠老朽化率は、いずれも全国平均を上回っており、法定耐用年数を超えている資産を多く保有し老朽化が進んでいます。

③ 管渠改善率は、改善管渠延長は増えているものの、耐用年数を超える管渠延長の増加により、改善率は微増となっています。

今後も進展する資産の老朽化に対して、下水道施設全体を対象に策定したストックマネジメント実施方針に基づき、計画的な点検・調査や修繕・改良に取り組むことで、更なる施設の健全化と強靭化を図ります。

2. 老朽化の状況



全体総括

下水道使用料は節水型機器の普及や1世帯当たりの人員の減少による小口化が続き、今後も原単位は減少するものの、人口の増加に伴い当面は微増傾向となると見込んでいます。また、支出では老朽化対策等を進めるとともに、優先順位の高い事業を重点施策とし今後取り組む必要があります。そのため、一層厳しい経営状況が予測されることから、安定的かつ継続的な事業経営を行うため、経営基盤の強化を図る必要があります。

健全経営を持続し良好なサービスを提供するため、下水道使用料のあり方を検討し、財政の健全性を保ちながら、独立採算制を原則とする最適な事業運営を目指します。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。